

# 2018 入善町「とやま型学力向上プログラム」研修会 アンケート集計

平成30年6月29日実施

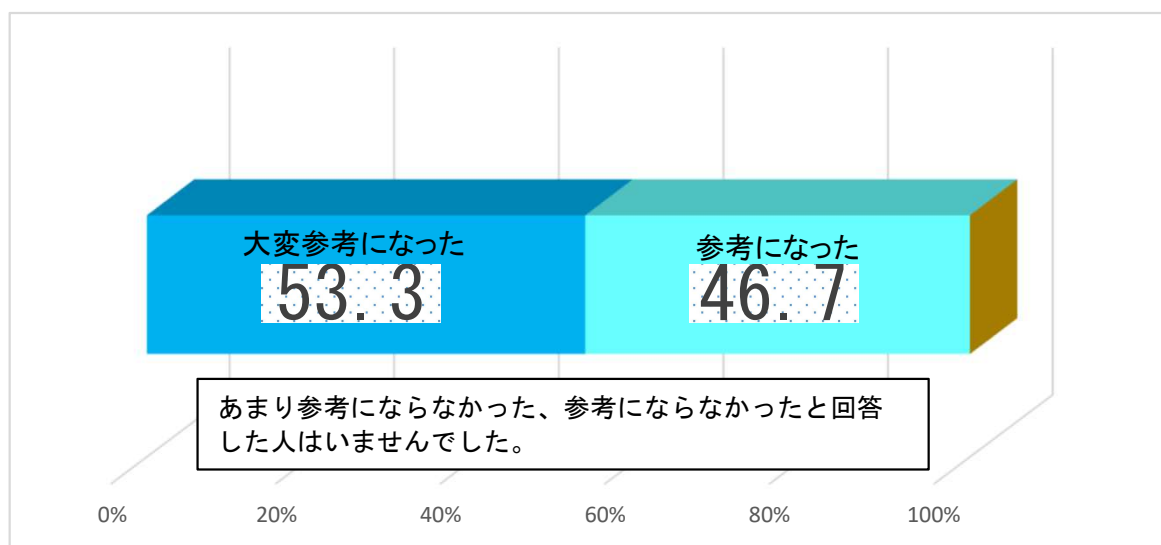
## 【研修で参考になった点】

- ・ 授業改善における振り返る視点や改善策について、考えるポイントを具体的実践事例を通して学べた。
- ・ 学習課題の重要性を感じた。
- ・ 主体的・対話的で深い学びについては、内容を聞きながら日々の授業実践を見直す必要性を自覚した。
- ・ 社会科の授業例で説明があり身近に感じた。生徒に「問い」をもたせるための研究、「Q-A」のための教材研究など、励まなくてはならないことが多々あることが分かった。研究するための時間を確保したいと強く感じた。
- ・ 学習課題の「なぜ」は、子供に（課題の前提も含めて）届くようにしなければならない。「なぜ」の問いの形で学習課題を出すことはしてこなかった。するとすれば、見通しが必要と感じた。子供が深く考え、気づきを促す授業づくりをしたい。
- ・ 授業改善の視点の明確なポイント。子供に届く学習課題の設定。
- ・ 対話的な学びについて「ふり返りの視点をもたせる」ことや、前の人の発言を踏まえて発言できるように教師からのほめ言葉や促しをすることは、教科だけではなく道徳や特活にもいかしたい。
- ・ 新学習指導要領のポイントが分かりやすく理解できた。話し合い学習での自分の課題が分かり、次への改善していく。
- ・ 自身の授業を振り返り、改善する点や今後試行したい点が見つかりたくさん考えさせられた。
- ・ 深い学びにつながる発問や流れを見つめることが大切だと感じた。
- ・ 協働やグループ活動の意味を思考する機会となった。対話的な学びを実践した後、生徒がグループ活動に喜びを見いだす展開を工夫したい。
- ・ 主体的な学びに欠かせないのが「問い」であることを感じた。
- ・ 主体的・対話的・深い学びという抽象的な言葉を自分の授業で自問自答する例がとても参考になった。
- ・ 授業実践例が参考になった。
- ・ 自信の授業を見つめる目をもつ。何のために、何をするか、常に意識して授業に臨む。
- ・ 授業に生かせる内容に感心した。
- ・ 主体的・対話的な学びのための問い、話し合わせる目的を考えていくことが大切だと感じた。深い学びができているか、自分で見つめることをしていきたいと感じた。目標以上のことをするのが深い学びではなく、深い学び自体のレベルが高いこととは少し違うと思った。
- ・ 話し合いをすることが目標ではないことを確認した。手段として有効な場合にしなければいけない。授業中の話し合いが、目標とならないようにしたい。
- ・ 対話的で深い学びの具体的な授業の進め方が分かった。
- ・ 主体的・対話的で深い学びが授業においてできているのか自問自答し、子供の学力につなげたいと思った。
- ・ 主体的・対話的で深い学びを実現するための手法だけでなく、授業の組み立てに必要な考えを理解できた。
- ・ 授業の構造をよく考え、生徒が楽しみ考える授業づくりに力を入れたい。
- ・ 社会科の授業を通して具体的な実践例を聞いてよかった。
- ・ 今、何のためにこれを学習しているかを生徒が気付いていることが大切。課題設定が大事なのではなく、生徒が何のためにこれをするか、分かることが大切だと再認識した。課題設定について再考したい。
- ・ 生徒・教師の課題について師事された。
- ・ 問いのたせ方、ふり返りのポイント、対話的な学びの重視、ゆったりとした気持ちで臨む。教材研究が不可欠。
- ・ 学習スタイルを小中で連携する。

- ・ 疑問を持たせることが大切。ヒントを与えすぎないことがポイント。
- ・ 子供自身にまとめをさせることの大切さを学んだ。
- ・ 実践例が身近で考えやすかった。見直しのポイントが分かった。授業改善に向けて一歩踏み出そうと思った。
- ・ 教材研究の大切さを学んだ。子供の発言をどうつないでいくか悩んでいる。勉強不足と反省している。
- ・ 自身の授業は、目標達成に向かっているか。子供が自主的に答えにたどり着く問いを考えたい。
- ・ 授業づくりはどうあるべきか学んだ。子供は学習活動を通して何を身に付けたらよいかを考えて授業改善する必要を感じた。
- ・ 教材研究の大切さ。指導要領は変わったが、教育の基本は変わらないことを感じた。教材研究に励みたい。
- ・ 教師が考える深い学びが、子供が考える深い学びにつながっているか考えさせられた。
- ・ いつも研究授業できつきつになる。15分は子供にプレゼントするという言葉があった。子供を信用する。子供は話してくれる。授業で話合いや思考の時間を削ぎ落とし、たくさん活動を取り入れてきた。これではダメなんだと感じた。
- ・ 子供に課題が届いているか再考した。そして、今一度子供に問いが届くよう頑張ろうと思った。
- ・ 自信の授業と比較しながら聴講した。自身の研究テーマと照らし合わせて実践してみたいことが見付かった。
- ・ 「～の…なことについて、自分の思いを書こう」と具体的にふり返らせることが大切だと分かった。日頃の学習から子供自身が自分の言葉でふり返ることができるようにしたい。受け止める力、反応する力を育てることは子供が能動的に学ぶために大切だと思った。
- ・ 新学習指導要領の目指すべき方向は理解できたが、言葉はとても難解だとも感じた。
- ・ 授業改善の視点が明確でよかった。
- ・ 課題の精選が大切であることが分かった。
- ・ 自問自答の例があり、ふり返りのポイントが分かった。
- ・ グループやペア活動を行う際には、子供が力を合わせる必要性を感じられる活動を設定していきたい。思考時間をタイマーで安易に区切らないようにもしていきたい。
- ・ 日々の授業が子供のためになっているか考えさせられた。言い換えのおかげで自分の意識を変えなければいけないということがひしひしと伝わり、早く教材研究に取り掛かりたい気持ちにさせられた。学生時代にこんな授業をしたいというあこがれの授業がここにあった。
- ・ 課題、ふり返りの再考。子供の声を聞く教師でありたい。対話的な学びが、本当の学力につながると学んだ。発問の工夫、課題設定など多くのことを教材研究したい。
- ・ ふり返りの視点を大切にする。具体的に子供に分かりやすい言葉を選んでいく。
- ・ 教材研究では答えを求めて何を教えるかに着目しがちだが、問いを精選していかないと、答えにたどり着くモチベーションを生み出せないのだと感じた。
- ・ 深い学びは目標達成に向けた学習であり、授業改善に向けて自問自答を繰り返していきたい。
- ・ 学習の見通し、学習課題は子供の疑問から出すのがよい。グループ学習は、子供たちが力を合わせる必要性を感じないと意味がないと言うことが参考になった。活動をグループ化すればよいということではないことを知った。
- ・ 社会では子供にまとめをさせることがよいことが参考となった。これまでは自分ばかりがまとめていた。

- ・対話的な学びについて、活動の必要性を感じているか、力を合わせる目的を理解しているか、受け止める力、反応する力を育てているかという点が大切だと感じた。また、学級経営も大切だし、聞く態度を褒めて育てることも大切だと思った。教師自身が、子供たちが聞きたいと思うしかけをつくったり、困ったという表情を見逃さないようにしたりして、少しずつ児童の力を付けていきたいと願った。
- ・日頃の悩みを解消できるよき講演であった。自分のものにしていきたいと思った。
- ・自分を見つめる、自分の目線をもつ（チェンジポイント）ことが授業改善へとつながる。自分の本気を自分で見つめ直すことから始まるということを知った。
- ・授業改善は自分の中に自分を見つめる師匠をもたなければならないという言葉が印象に残った。課題のたせ方、活動、ふり返り等の具体案を提示していただいたので改善を図りたい。
- ・授業のゴールを見通し、子供の考えを大切にしたい授業改善をしていくスキルが参考になった。

## 講演内容は参考になりましたか



アンケートご協力ありがとうございました。皆さんからいただいた貴重な意見等を次年度にいかしていきます。また、本年度の講演内容が、多くの皆さんの参考になり、大変うれしく思います。